

トルコの柑橘類事情(オレンジ、タンジェリン/マンダリン、オレンジ果汁)

米国農務省GAINレポート 2023年6月20日

これは米国農務省海外農業局のアンカラ事務所(トルコ)が作成した「柑橘類半期報告書」のオレンジ、タンジェリン/マンダリン、オレンジ果汁の項(他の品目は生産需給統計のみ)を訳したものであり、米国政府の公式見解及びデータとは異なる場合があります。

報告書の要点

2022/23年度の柑橘類の生産量は、2022年3月のオレンジの開花期の初めに-7℃に達した極寒の気象条件により、タンジェリンを除くすべての柑橘類で減少した。2022/23年度の柑橘類の輸出量は、海外需要の減少、ロシア・ウクライナ戦争による政情不安、輸送と物流の問題により、前年比でわずかに減少した。

特に、柑橘類の輸出業者は、2023年3月のトルコ南東部の地震によって道路が閉鎖され、冷蔵施設が人道支援に優先使用されたため、深刻な影響を受けた。地震の被災地域はトルコの柑橘類生産の57.5%を占めており、そのうち被害の大きかったハタイ県は生産量の20.8%を占め、レモンは特に影響を受けた。トルコの主要な輸出市場は、ロシア、ウクライナ、イラク、ポーランド、ルーマニアである。

<オレンジ(生鮮)>

生産

2022/23年度のオレンジの生産量予測は、2022年3月のオレンジの開花期に-7℃に達した極寒の気象条件のため、わずかに下方修正して132万トンとする。着果果樹本数のわずかな増加にもかかわらず、この寒波は果実の成熟プロセスに影響を与えた(図2)。トルコは2021/22年度に、同国のオレンジ生産量の80~85%を占める地中海地域で雨の多い良好な天候条件に恵まれたことから175万トンのオレンジを生産し、これは2020/21年度(130万トン)に比べて35%多かった。

2022/23年度の収量の減少は、オレンジ総生産量の70%を占めるワシントン(Washington)品種の28%の減収に現れた。2番目に影響を受けた品種はヤファ(Yapha)で22%減収し、他の品種は平均15%減収した。

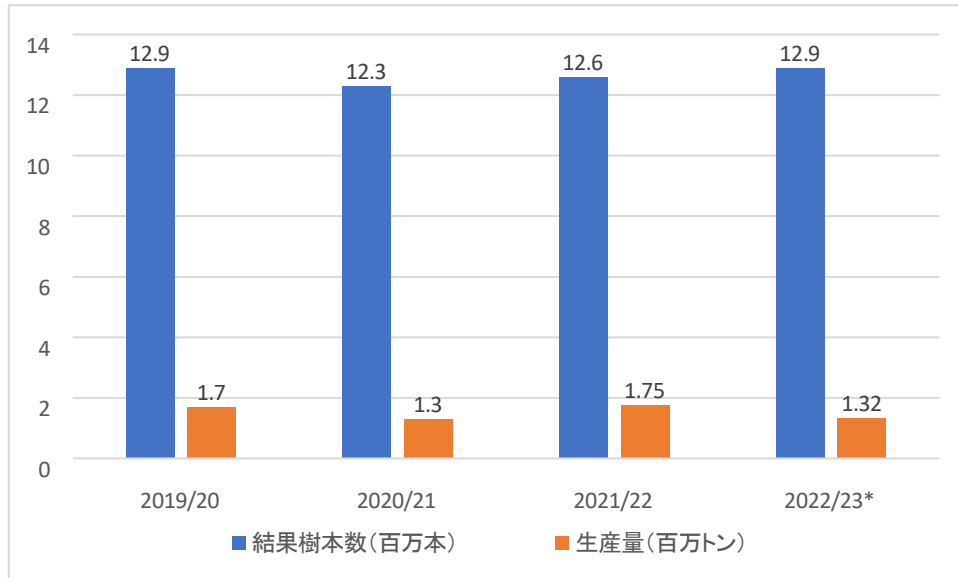
図1 オレンジ果樹園面積(ha)、結果樹本数及び果樹当たり収量(kg)
2019/20年度-2020/21年度-2021/22年度-2022/23年度



出典: トルコ統計局 2023年

他のトルコの生産者と同様に、柑橘類の生産者は、燃料、電気、肥料、農薬等投入コストの上昇に対処している。生産者は、肥料とディーゼル燃料の価格の上昇によって特に大きな打撃を受けている。ディーゼル燃料と肥料に対する政府の補助金は2022年にそれぞれ264%及び162%増加したが、実際には肥料の価格は前年比で400%上昇し、ディーゼル燃料の価格は前年比250%上昇している。その結果、生産者の全体的なコストは、2022年に204%上昇した。

図2 トルコのオレンジ生産量(百万トン)と結果樹本数(百万本)
2019/20年度-2020/21年度-2021/22年度-2022/23年度の比較



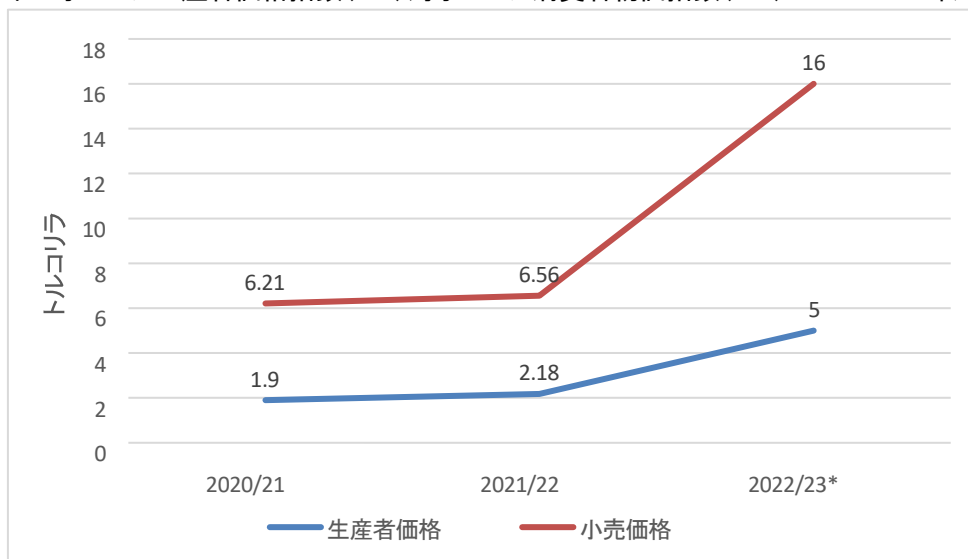
出典: トルコ統計局 2023年 *は当事務所の推計値

消費

2022/23年度のオレンジ消費量は、生産量の減少と減収による市場価格の上昇のため、106万トンに減少すると予想される。2021/22年度のオレンジ消費量は130万トン、2020/21年度の消費量は102万トンであった。

2022年のオレンジの平均小売価格は、前年と比較して141.7%上昇した。さらに、生産物が小売店の棚に並ぶためには中間業者と輸送のコストが加算されるため、小売価格は農場の販売価格の約3倍となる。他の柑橘類も、同じ理由で、国内サプライチェーンの中で農場販売価格と小売価格の間には大きな差がある。

図3 オレンジ生産者価格指数(PPI)対オレンジ消費者物価指数(CPI) 2019-21年比較



出典: トルコ統計局 2023年 (2023年6月8日現在、1米ドルは23.5トルコリラに相当)

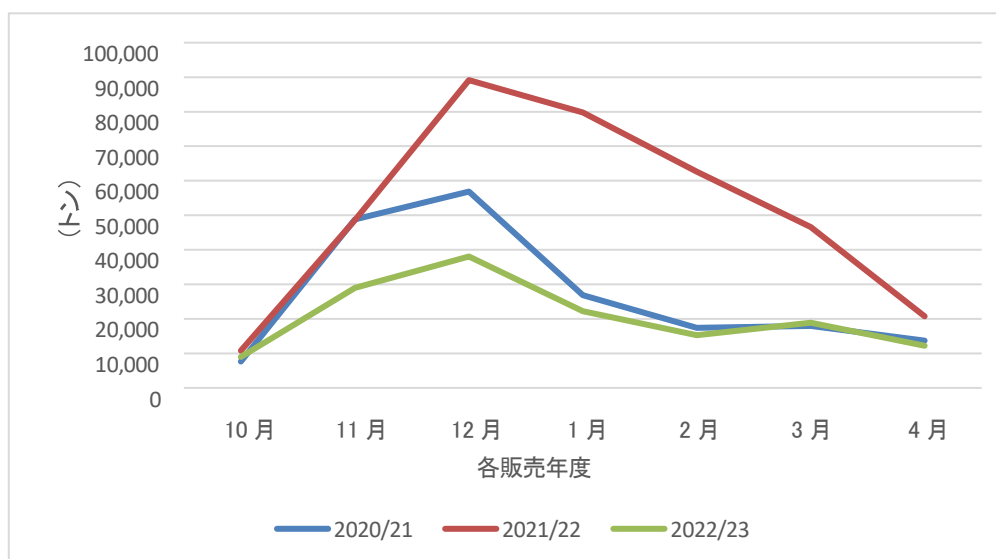
(訳注: グラフの表題は原文のまま)

貿易 輸出

2022/23年度のオレンジ輸出量は、米国農務省の公式予測である29万1千トンより36%少ない18万5千トンに減少すると予想される。この減少は、栽培面積と結果樹本数の増加にもかかわらず、収量の低下により生産量が減少したためである。トルコは2021/22年に38万9千トンのオレンジを輸出し、これは2020/21年度の22万608トンより76%多かった。2021/22年度には、ロシア当局の最大残留基準値(MRL)に関わる懸念の結果として輸出業者が中東諸国を優先したため、イラクとシリアへの輸出が増加した。その間に、ロシアとウクライナへの柑橘類の出荷は、ウクライナでの戦争のために困難になった。

現在の販売年度(2022/23年度)の最初の7か月間(10月～4月)のオレンジ輸出量は、前年同期と比較して60%減少した。

図4 トルコのオレンジ輸出量
2020/21年度、2021/22年度及び2022/23年度の月別比較



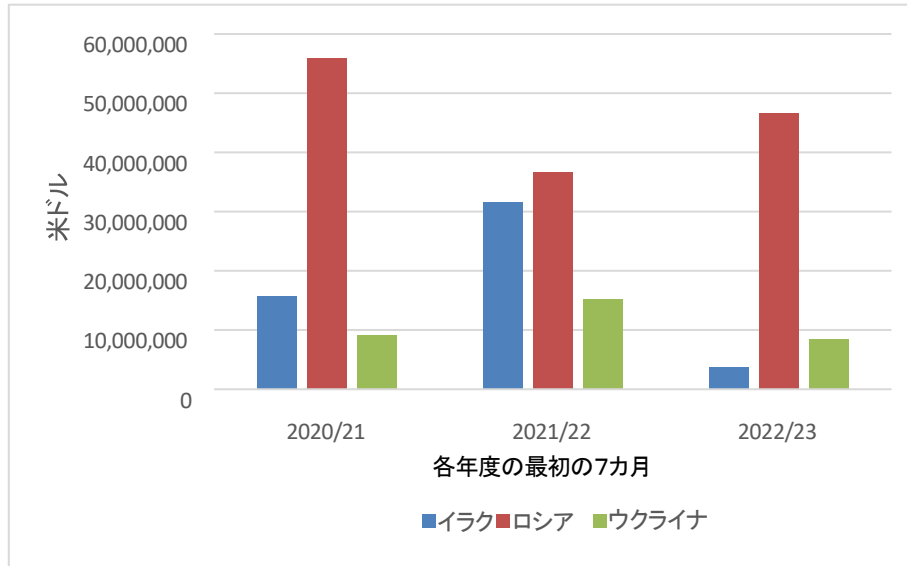
出典: Trade Data Monitor, LLC

主要な輸出先は、ロシア、イラク、ウクライナである。2022/23年度は年度当初から、トルコの出荷業者がより収益性の高い輸出価格を示すロシア市場に供給するようにシフトしているため、イラクへのオレンジ輸出の大幅な減少が見られる。さらに、イラクの生産者は、国内生産を支援するために果実や野菜の輸入への支援を減らすようイラクの金融機関に影響を与える協調した働きかけを行っている。

イラクは従来からトルコ産オレンジの最大の輸出先であるにもかかわらず、この6か月間にイラク向けの出荷量は87%、ウクライナへの出荷量は60%減少した。トルコの生産量の70%が地中海地域のものであるため、2023年3月の地震は柑橘類の輸出にも影響を及ぼした。この期間(10～4月)のロシア向け輸出量は、供給量の減少により前年比3%減となった。

EU加盟国は残留農薬の問題に対処するため、2022年1月からトルコ産オレンジに対して適合証明書を求めるようになった。適合証明書を取得するためには、輸出前にトルコの認可された試験機関で特定の残留物の検査を受ける必要がある。この新しい要件により、輸出業務に追加の費用がかかるようになった。トルコ産オレンジのEUへの輸出は、今や書類審査及び物理的な検査が20～30%増えている。

図5 3つの主要市場へのトルコのオレンジ輸出額(米ドル)
2020/21年度、2021/22年度、2022/23年度の最初の7か月の比較



出典: Trade Data Monitor, LLC

輸入

2022/23年度のオレンジの輸入量は、2021/22年度及び2020/21年度と同じ4万3千トンの横ばいと予想される。ほとんどすべての輸入オレンジは、北キプロス・トルコ共和国 (TRNC) から来ている。トルコのオレンジ輸入は国内生産量にも依存するが、TRNCからの輸入は、トルコが経済的及び政治的にTRNCを支援する一つの手段にもなっている。(TRNCは、トルコのみが国家承認している北キプロスのトルコ系住民の多い地域)

表1 トルコの生鮮オレンジの生産需給統計

オレンジ(生鮮) 販売年度 トルコ	2020/2021		2021/2022		2022/2023	
	2020年10月～翌年9月 農務省公式	今回推計値	2021年10月～翌年9月 農務省公式	今回推計値	2022年10月～翌年9月 農務省公式	今回推計値
栽培面積(ヘクタール)	46,012	46,012	48,176	48,176	48,000	49,535
収穫面積(ヘクタール)	46,000	46,000	48,176	48,176	47,000	50,000
結果樹本数(千本)	12,306	12,306	12,620	12,620	12,000	12,966
未結果樹本数(千本)	1,052	1,052	1,210	1,210	1,300	1,786
果樹本数合計(千本)	13,358	13,358	13,830	13,830	13,300	14,752
生産量(千トン)	1,300	1,300	1,750	1,750	1,400	1,320
輸入量(千トン)	46	46	45	45	45	43
総供給量(千トン)	1,346	1,346	1,795	1,795	1,445	1,363
輸出量(千トン)	223	223	389	389	291	185
生鮮国内消費量(千トン)	1,018	1,018	1,296	1,296	1,044	1,068
加工仕向量(千トン)	105	105	110	110	110	110
総仕向量(千トン)	1,346	1,346	1,795	1,795	1,445	1,363

<タンジェリン/マンダリン(生鮮)>

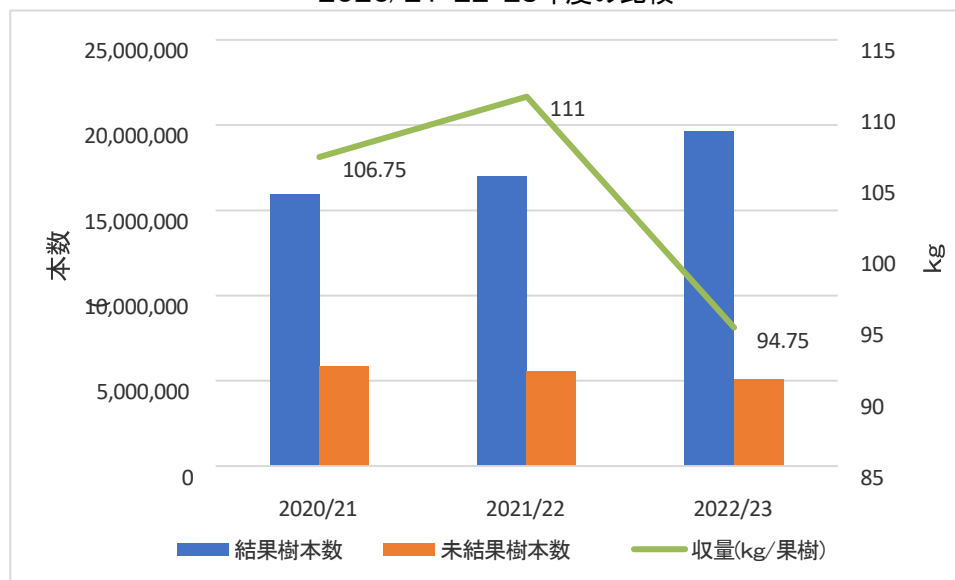
生産

2022/23年度のマンダリン生産量は、前年度と変わらず186万トンと予測される。マンダリンは2022年3月の開花中の極寒の天候条件の影響が少ないため、この予測は米国農務省の当初の公式推定値よりも38万トン多い。また、エーゲ海地域の収量は非常に良好で、中でも最も広く栽培され、国内消費と輸出の両方にとって重要なウンシュウミカンは特に良好であった。

2021/22年度のマンダリン生産量は、地中海地域の良好な気象条件に恵まれ181万トンであった。2020/21年度の実績は160万トンであった。トルコのタンジェリンの大部分は地中海沿岸のハタイ県で生産されており、ここは2023年2月の地震が特に壊滅的な被害をもたらした地域である。

2022/23年度には果樹当たりの収量が減少したが、特にエーゲ海地域で結果樹本数が増加し、総生産量を補った。一方、最大の減収は、地中海地域で栽培されているクレメンタインとキング品種で見られた。また晩生及び早生のタンジェリン品種の果樹園面積も拡大しており、厳しい輸出市場への季節的な供給量が増加している。

図6 トルコのタンジェリンの結果樹、未結果樹本数と果樹当たり収量
2020/21-22-23年度の比較



出典: トルコ統計局 2023年

タンジェリン生産者はまた、燃料、電気、肥料、農薬等投入コストの上昇に苦しんでいる。国内の複数の農業会議所によると、タンジェリンの生産コストはすべての果実の中で2番目に高く、生産者価格は2022年に528.4%上昇した。(原文のまま)

消費

2022/23年度のマンダリン消費量は、米国農務省の公式数値から92万5千トンに上方修正した。この増加は、十分な国内生産量と予想外の輸出減少によるものである。2021/22年度には、栽培面積と結果樹本数の増加、及び一人当たり消費量の増加(9.29kg/人)により、トルコのタンジェリンの国内消費量は86万8千トンであった。2020/21年度には、トルコのタンジェリンの国内消費量は一人当たり7.7kgに相当する74万トンであった。

マンダリンの小売価格は、農場価格よりも約200%高い。この価格差は、特に近年利幅が縮小しているため、多くの生産者にとっての懸念事項である。オレンジと同様に、農場価格と小売価格の間のかかなりの価格差は、農場から都市へのサプライチェーンにおける中間業者と輸送のコストの高さに起因している。

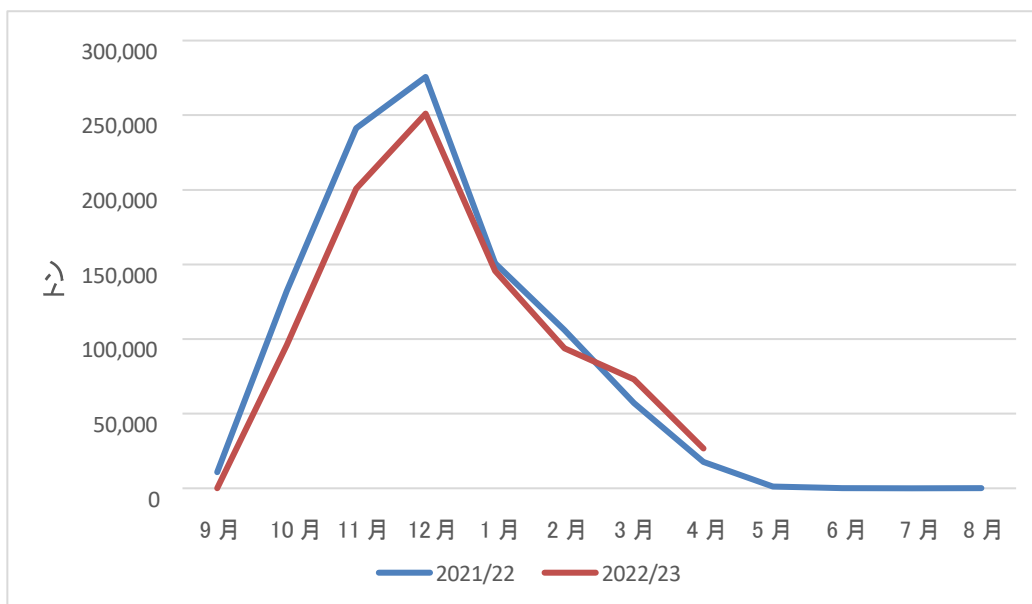
貿易

輸出

2022/23年度のタンジェリンの予測輸出量は99万トンで、イラク政府が国内生産を支援するために果実や野菜の輸入を遅らせることを決定した結果、イラクへの輸出が予想外に減少したため、前年度と同じである。ロシアは依然としてトルコのタンジェリンの最大の輸出市場である。

タンジェリンは、トルコで生産される最も輸出量の多い柑橘類である。トルコの輸出業者らによると、トルコのタンジェリンは皮をむきやすいため、需要が高いとのことである。さらに、タンジェリンの輸出の増加は、トルコの柑橘類の出荷シーズンの拡大にも貢献している。トルコの輸出業者らは、包装と果実の品質により柑橘類の輸出市場でうまく競争できると考えている。

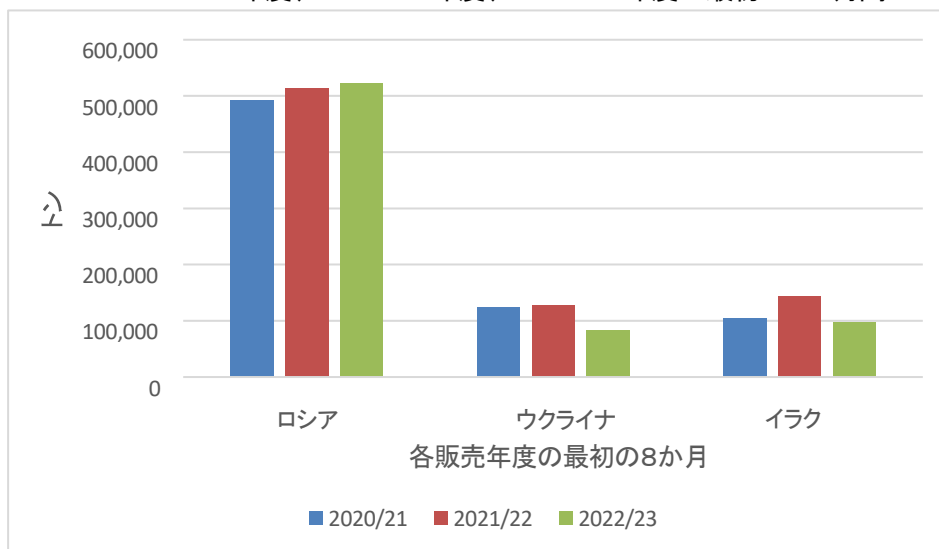
図7 トルコのタンジェリン輸出 2021/22年度と2022/23年度の月次比較



出典: Trade Data Monitor, LLC

2021/22年度のタンジェリン輸出量は99万3,319トンであった。高品質な果実の生産量の増加と高い輸出需要により、2021/22年度にはタンジェリンの総生産量の半分以上が輸出された。トルコは、2021/22年度に4億7,600万ドルのタンジェリンを輸出し、世界で最大級のタンジェリン輸出国の1つと見なされている。トルコ産タンジェリンの需要が最も高いのはロシアとウクライナである。2021/22年度のタンジェリンの総輸出量の65%がロシア向けで、輸出額は3億200万ドルであった。2020/21年度には、トルコは89万8,322トンのタンジェリンを輸出し、その大部分をロシア、ウクライナ及びイラクに輸出した。

図8 トルコの主要タンジェリン輸出市場の比較
2020/21年度、2021/22年度、2022/23年度の最初の8か月間



出典: Trade Data Monitor, LLC

ウンシュウミカン(サツマ)は輸出されるタンジェリンの中で最も人気のある品種であり、総輸出額の約半分を占めている。さらに、トルコ西海岸に位置するイズミル県産の種なしタンジェリン品種は、輸出用として次第に人気が高まっていると報告されている。オレンジと同様に、EU諸国へのタンジェリンの輸出には適合証明書の取得が必要である。さらに、2022年1月の時点で、英国へのトルコのタンジェリンの輸出は、到着時の農薬検査が強化されており、貨物の検査率は50%となっている。

輸入

2022/23年度のトルコのタンジェリンの輸出量は合計5万5,700トンと予想されており、これは2021/22年度をわずかに上回っている。2021/22年度には、トルコは主にTRNC*から5万2,106トンを入力した。タンジェリンの輸入の98%はTRNCからのものである。(*: オレンジの輸入の項参照)

表2 トルコのタンジェリン/マンダリンの生産需給統計

タンジェリン/マンダリン(生鮮) 販売年度 トルコ	2020/2021		2021/2022		2022/2023	
	2020年9月～翌年8月 農務省公式	今回推計値	2021年9月～翌年8月 農務省公式	今回推計値	2022年9月～翌年8月 農務省公式	今回推計値
栽培面積(ヘクタール)	59,832	59,832	60,719	60,719	60,000	67,853
収穫面積(ヘクタール)	58,000	58,000	60,719	60,719	60,000	67,853
結果樹本数(千本)	15,926	15,926	16,987	16,987	15,000	19,620
未結果樹本数(千本)	5,842	5,842	5,571	5,571	6,000	5,053
果樹本数合計(千本)	21,768	21,768	22,558	22,558	21,000	24,673
生産量(千トン)	1,600	1,600	1,810	1,810	1,480	1,860
輸入量(千トン)	39	39	53	53	50	56
総供給量(千トン)	1,639	1,639	1,863	1,863	1,530	1,916
輸出量(千トン)	898	898	994	994	990	990
生鮮国内消費量(千トン)	740	740	868	868	539	925
加工仕向量(千トン)	1	1	1	1	1	1
総仕向量(千トン)	1,639	1,639	1,863	1,863	1,530	1,916

<レモン/ライム(生鮮)>

表3 トルコのレモン/ライムの生産需給統計

レモン/ライム(生鮮) 販売年度 トルコ	2020/2021		2021/2022		2022/2023	
	2020年9月～翌年8月 農務省公式	今回推計値	2021年9月～翌年8月 農務省公式	今回推計値	2022年9月～翌年8月 農務省公式	今回推計値
栽培面積(ヘクタール)	46,935	46,935	52,233	52,233	51,000	55,426
収穫面積(ヘクタール)	45,000	45,000	52,233	52,233	51,000	55,426
結果樹本数(千本)	11,139	11,139	13,539	13,539	12,000	14,699
未結果樹本数(千本)	4,391	4,391	4,112	4,112	4,500	4,676
果樹本数合計(千本)	15,530	15,530	17,651	17,651	16,500	19,375
生産量(千トン)	1,100	1,100	1,500	1,500	1,200	1,320
輸入量(千トン)	3	3	5	5	3	3
総供給量(千トン)	1,103	1,103	1,505	1,505	1,203	1,323
輸出量(千トン)	620	620	693	693	600	600
生鮮国内消費量(千トン)	433	433	762	762	553	673
加工仕向量(千トン)	50	50	50	50	50	50
総仕向量(千トン)	1,103	1,103	1,505	1,505	1,203	1,323

<グレープフルーツ(生鮮)>

表4 トルコのグレープフルーツの生産需給統計

グレープフルーツ(生鮮) 販売年度 トルコ	2020/2021		2021/2022		2022/2023	
	2020年10月～翌年9月 農務省公式	今回推計値	2021年10月～翌年9月 農務省公式	今回推計値	2022年10月～翌年9月 農務省公式	今回推計値
栽培面積(ヘクタール)	5,051	5,051	5,039	5,039	4,700	4,982
収穫面積(ヘクタール)	4,800	4,800	4,900	4,900	4,500	4,700
結果樹本数(千本)	1,184	1,184	1,189	1,189	1,000	1,073
未結果樹本数(千本)	44	44	27	27	28	68
果樹本数合計(千本)	1,228	1,228	1,216	1,216	1,028	1,141
生産量(千トン)	238	238	249	249	186	198
輸入量(千トン)	1	1	4	4	1	1
総供給量(千トン)	239	239	253	253	187	199
輸出量(千トン)	161	161	149	149	126	126
生鮮国内消費量(千トン)	77	77	103	103	60	72
加工仕向量(千トン)	1	1	1	1	1	1
総仕向量(千トン)	239	239	253	253	187	199

<オレンジ果汁>

製造

2022/23年度のオレンジ果汁製造量は2021/22年度と同じ1万トンと予測される。トルコの果実部門は、オレンジの収穫量の減少に対応したオレンジ果汁製造量の減少を想定していない。

加工場に送られるオレンジの数は11万トンで横ばいであった。トルコの果実加工産業はまだ発展途上であり、非常に限られた潜在的な輸出市場に到達できるよう産業を発展させるための政府の支援を求めている。果汁輸出業者らによると、トルコのオレンジ品種の果汁率は必ずしも理想的な業界標準を満たしているわけではない。これらの基準を満たすために、トルコの生産者らは、搾汁用果実の基準を改善するための業界による計画策定をトルコ政府が支援することを期待している。

トルコで最も人気のある果汁製造用果実は、リンゴ、アンズ、サクランボ、オレンジ、ザクロである。柑橘類の総生産量の5～10%が果汁業界で加工されている。トルコ果汁産業協会(MEYED)によると、加工果実全体の7%がオレンジ、5%がレモンである。

トルコの果汁消費量は年間8～9リットル(1人当たり)と推定され、ヨーロッパ諸国と比較してかなり少ない。

貿易

輸出

2022/23年度のオレンジ果汁輸出量は、オレンジの生産量が安定していることから、前年度とほぼ同じ3,500トンと予測される。トルコは、2021/22年度に570万ドル相当のオレンジ果汁3,675トンを主にイタリア、オランダ、イラクに輸出し、これは470万ドル相当の3,160トンを輸出した2020/21年度よりも16%多かった。

輸入

2022/23年度のオレンジ果汁輸入量は、国内市場の需要の微増により、2,500トンに増加すると推定される。トルコは2021/22年度に主にキプロス、イスラエル、イタリアから2,200トンのオレンジ果汁を輸入した。トルコは、加糖か否かを問わず主に冷凍のオレンジ果汁を輸入している。

表5 トルコのオレンジ果汁の生産需給統計

オレンジ果汁 販売年度 トルコ	2020/2021		2021/2022		2022/2023	
	2020年10月～翌年9月		2021年10月～翌年9月		2022年10月～翌年9月	
	農務省公式	今回推計値	農務省公式	今回推計値	農務省公式	今回推計値
原料果実加工仕向量(トン)	105,000	105,000	110,000	110,000	110,000	110,000
期首在庫(トン)	150	150	150	150	150	150
製造量(トン)	9,500	9,500	10,000	10,000	10,000	10,000
輸入量(トン)	1,213	1,213	2,200	2,200	2,500	2,500
総供給量(トン)	10,863	10,863	12,350	12,350	12,650	12,650
輸出量(トン)	3,159	3,159	3,675	3,675	3,500	3,500
国内消費量(トン)	7,554	7,554	8,525	8,525	9,000	9,000
期末在庫(トン)	150	150	150	150	150	150
総仕向量(トン)	10,863	10,863	12,350	12,350	12,650	12,650